

内藤 修



「令和の米騒動」のなか コメ農家の経営破綻相次ぐ

今夏、全国的なコメ不足と価格高騰が続きました。こうしたなか、「米作農家」の倒産や廃業に歯止めがかかりません。2024年は8月までの累計で、米作農業（コメ農家）の倒産（負債1000万円以上、法的整理）が6件、休廃業・解散（廃業）が28件発生し、計34件が生産現場から消滅しました。倒産・廃業の合計は、2023年の年間件数（35件）を大幅に上回り、年間最多となるのは確実な状況です。

業容拡大してきた老舗農業経営者 「道下産地」

ことし3月、負債3億円を抱えて破産した「道下産地」（北海道岩見沢市）もそうした1社です。同社は明治38年に創業し、業歴119年を有する老舗の農業経営者で、耕作地の開拓を進めて米作を主体とする営農に携わり業容を拡大してきました。主食用米として「おぼろづき」や「ゆめぴりか」などのブランド米のほか、飼料米の生産に力を入れてきました。

飲食業者や個人顧客を得意先として営業展開を図り、2019年12月期には年売上高約1億6600万円を計上しました。この間、併設する直売所で自社産品を販売するほか、関連会社の運営によるファームレストランを開設し、地元顧客や観光客を対象に洋食やブラジル料理を提供していました。

しかし、多角化にともなう設備投資負担もあって従前から資金繰りに余裕はなく、借入金の

返済に苦慮しました。米作の売上げが減少基調をたどるなかで、新型コロナウイルスの感染が拡大。その影響もあって関連会社のレストラン事業も不振に陥り、2021年12月期の年売上高はコロナ禍前の半減以下となる約6100万円に落ち込みました。その後も業況回復を図れず、ことし3月、事業継続を断念しました。

コメ農家の深刻な後継者・ 就農者不足……

コメ農家で経営破綻が相次ぐ背景には、生産コストの上昇と深刻な後継者・就農者不足が挙げられます。農林水産省の調査によると、2023年における農業に必要な生産資材の価格は2020年平均に比べて1.2倍に上昇。なかでも、原料の多くを輸入に頼る肥料は1.5倍、ガソリン・軽油の値上がりで光熱動力費は1.3倍、農業薬剤は1.1倍と、主な資材のほとんどが値上がりしました。

他方で、国内の主食用米の消費量減少などを背景に、販売価格への転嫁も難しい状況が続いています。このため利益確保がままならず、翌年の苗床やトラクターなどの機材調達費用も捻出できず、コメづくりを断念するケースも多かったと見られます。

小規模業者では就農者の高齢化や離農が進む一方、次世代の担い手が見つからないなど後継者不足の問題が顕在化しており、コメ農家にとっては厳しい経営環境が当面続きそうです。●

ないとう おさむ

2000年に帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支社情報部、横浜支店情報部長、情報統括部情報取材課長を経て、23年10月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は、倒産動向分析、企業再生研究。